

上海体育学院との学術交流事業に参加して  
**Academic exchange at Shanghai University of Sports**

浅香明子

Meiko Asaka

早稲田大学大学院スポーツ科学研究科

Graduate School of Sport Sciences, Waseda University

スポーツ科学研究, 7, 129-131, 2010年, 受付日:2010年12月25日, 受理日:2010年12月25日

2010年11月5日(金)から2010年11月8日(月)まで、早稲田大学グローバル COE プログラム事業の一環として、箇所間協定を結んでいる上海体育学院との学術交流に GCOE 登録学生 5 名のうちの 1 人として参加した。また、今回の主要な目的は、上海体育学院で開催された 4<sup>th</sup> Shanghai International Forum on Exercise and Health に参加し、その中の Sino-Japan Postgraduates Forum において自身の研究成果について口頭発表を行うことであった。

上海体育学院は、1952 年に開設された中国で最も歴史の長い体育大学であり、中国の伝統武術を始め、体育教育、スポーツ科学に特化した大学である。上海に到着した初日、上海体育学院の大学院生が大学内の施設を案内して下さった(写真 1)。上海体育学院の中心には、歴史的建造物である旧政府特別市政府の建物が建ち、サッカーコート 2 面、陸上トラック 2 面、屋内陸上トラック、屋内・屋外プール、大体育館、テニスコート、さらには大学構内に武術博物館が存在し、その広さに驚かされた。武術博物館には、古くに使われていた剣の展示や、近年日本でも人気の高い太極拳をはじめとしたあらゆる流派の拳法の歴史が展示されていた。また、研究施設は分野ごとに分かれており、我々は運動科学分野の研究棟を見学させていただいたが、研究設備も非常に充実しており、大学院生は勉強・研究と

スポーツを両立して学生生活を満喫しているようであった。

また、我々の案内をして下さった 4 名の大学院生のうち、3 名は現在日本語を勉強中で、中には 1 年間日本に留学していた学生もいたが、上海で 2 年しか勉強していない学生でも、積極的かつ流暢に日本語で話しかけてきてくれた。彼女等のその日本語を話そう、学ぼうという積極的な姿勢は、非常に素晴らしく、とても良い刺激となった。

2 日目は、4<sup>th</sup> Shanghai International Forum on Exercise and Health に参加し、シンポジストの先生方の講演を聴講した。基本的には英語の講演ということであったが、中には中国語も交ざっており、この分野に関する国際化という点においては、日本と同様、まだこれからの課題の一つではないかと感じた。また、初日とは別の学生とも交流でき、つたない英語ながら自身の研究や興味について説明し、翌日の発表に向けての英語の練習にもなった。

3 日目、我々の今回の一番のイベントである、大学院生による英語での研究発表が行われた。我々日本人学生 5 名に加え、中国人学生 5 名が発表したが、分野はスポーツ科学の中でも非常に多岐にわたるものであった。両国の学生とも緊張しながらも、内容のある良い発表を行えたと思う。私自身は、質疑応答において非常に苦手意識を

持っており、質問に答えはしたものの、後々もっと良い答え方があったのではないかと多くの反省点が残った。また、中国人学生は臆することなく他の発表者に英語で質問していたのに対し、質問をしたくても英語で質問すること自体に恐縮してしまった。したがって、質疑応答に正確に答えられるよう練習を重ねること、英語で質問できるようにすることが、今回の経験で得た今後の課題である。しかし、座長の先生から、我々の研究および発表に対するお褒めの言葉をいただいたことは、この学术交流に参加して得た大きな成果であった。

今年度、グローバル COE プログラムのおかげで、今回の発表も含めて、英語で口頭発表をする機会を多く得ることができ、非常にたくさんの刺激を受けた。世界に目を向けると、上海の学生をはじめ、英語圏でない国の人でも、修士課程や博士課程の学生が、非常に流暢な英語で積極的に口頭発表を行っている。一方、日本人は口

頭発表を避ける傾向があり、さらに海外の方からも、日本人はシャイであり英語の発表が苦手であると思われるようだ。しかしながら、これから先、世界を視野に入れて研究を行っていききたいと思うならば、それはいつか乗り越えなければならない壁である。その「いつか」を、まだ失敗してもやり直しがきき、グローバル COE プログラムのサポートがある「いま」にしたい。

非常に恵まれた環境で研究を行うことができるいま、その機会を無駄にせず、挑戦すべきことは挑戦し、世界に通用する研究者を目指していきたい。

最後に、この学术交流コーディネーターの曹振波先生、研究院助教の先生方をはじめ、ご尽力いただいた早稲田大学スポーツ科学学術院の先生方、お世話になった上海体育学院の先生方、終始手厚く歓迎してくださった上海体育学院の大学院生の皆様に深謝いたします。



写真1 上海体育学院の学生と交流



写真2 Sino-Japan Postgraduates Forum



写真3 The 4<sup>th</sup> Shanghai International Forum on Exercise and Health 記念撮影  
—旧政府特別市政府の建物前にて—